

奈良女子大 相川佳予子

1. 宋代は中国史上大きな変革をみた時代といわれ、政治的には唐朝の貴族支配が崩壊して新興の官僚に支えられた独裁君主支配が確立され、経済的には商工業の発展と都市の庶民生活が形成された時代として注目されている。庶民の擡頭は従来の支配者独占の文化に対して新しい文化を生み出したが、中国近世の服飾を検討するにあたって、都市生活者の服飾の実態を知ることが試みた。

2. 資料は宋代の随筆夢溪筆談、東京夢華録、夢梁録を用い、絵画資料として清明上河図、永楽宮壁画を用いて文献と対照し検討した。また最近発掘された宋および元の衣服の実物についても考えてみた。

3. 宋代には都市生活、農村生活が確立していたことは上記文献からも明らかで、都市生活者の衣服および服飾品はすべて市場の商人を通して供給されている。士農工商の身分制度も明確で、衣装の色は各々異なり、あえてこれを越えることなく、同じ商人でも職種によって冠や帽を着用するものとならないものがあるなど、市街の人々を服装によって識別できたようである。また刺繍や染色にはそれぞれ専門の職人があって、これに従事していたことなどが知られる。